

## 2007 年度共同研究について

田 中 耕二郎

共同研究代表者

研究課題：「オーストラリアの高等教育の質的改善に関する調査研究  
——メルボルン大学における FD 活動を中心として——」

### 研究の背景と目的

今日、わが国では高等教育の質的改善を図るためにさまざまな取り組みが求められている。本来、これらの取り組みは外部から強制されるものではなく、内部において自律的・主体的に取り組まなければならないはずのものである。

追手門学院大学でも 1991 年以來自己評価活動が展開され、授業評価をはじめさまざまな取り組みが行われてきたが、必ずしも十分な成果を挙げているとはいえない。

本研究は、高等教育の質的改善の取り組みにおいて世界的に注目されているメルボルン大学の FD 活動を中心に調査し、本学の教育・研究の質的改善に係る有益な示唆を得ることを目的としている。

### 研究の実施計画と参加者

本研究は、2007 年 4 月 1 日に開始し、2008 年 3 月 31 日に終了する。この間、先行研究の渉猟と関連資料の収集を 8 月末頃までに終え、2007 年 9 月上旬に 1 週間程度の予定でメルボルン大学において現地調査と中間報告を兼ねた第 1 回セミナーを行う。

その後、補足資料の収集を継続しつつ、メルボルン大学のオーストラリア・センター及び高等教育研究センターにおける FD 活動を中心としたオーストラリアの高等教育の質的改善の取り組みを整理し、2008 年 2 月（予定）にメルボルン大学から 2 名の研究者を追手門学院大学に招聘し、総括報告を兼ねた第 2 回セミナーを行う。

また、インターネットを駆使して、メルボルン大学以外のオーストラリアの大学における同様の取り組みについても幅広く資料を収集し、本学の教育・研究活動の改善に資する示唆を得ることに努める。

本研究の参加者は、追手門学院大学オーストラリア研究所から、田中耕二郎教授（代表：教育行政学）、井ノ口淳三教授（教育哲学）、山中雅夫教授（経営学）、メルボルン大学オーストラリア・センターから Fay Anderson 所長のほか、John Murphy 准教授が予定されてい

る。

本研究の成果は「オーストラリア研究紀要」第34号（2008年12月発行予定）に掲載される。

#### サー・ニール・カーリー奨学金による共同研究への発展

なお、幸いにも本研究に関連して企画された「追手門学院大学オーストラリア研究所における研究・教育活動の発展・充実のための調査研究」に対して、日交流基金の2007年度サー・ニール・カーリー奨学金が交付されることになった。この研究においては「追手門学院大学オーストラリア研究所における研究・教育活動の発展・充実を図るために、メルボルン大学オーストラリア・センターおよび同大学高等教育研究センターの活動状況を調査するとともに、両組織との連携・協力を発展させること」が目的とされている。

このサー・ニール・カーリー奨学金による研究は、2008年4月1日から開始し、2009年3月31日に終了する。この間、前年度と同様に2008年9月上旬に1週間程度の予定でメルボルン大学において現地調査と中間報告を兼ねた第1回セミナーを行い、2009年2月（予定）にメルボルン大学から2名の研究者を追手門学院大学に招聘し、最終報告を兼ねた第2回セミナーを行う。